

# 行ってみよう！ 聖地エルサレム・パレスチナ自治区



**日本の国際援助最前線の現場を訪問!!!**  
～日頃あなたが抱いている疑問を現場で見聞しませんか～

日付	日程	食/泊
2/9 (土)	東京から空路アンマンへ	機 【機内泊】
2/10 (日)	スタディトリップ in 死海 →アンマン着、現地ガイドさんが出迎え、専用車で最古の地図が残るマタバの聖ジョージ教会、JICA が博物館支援する死海ミュージアム、死海ビーチを訪問 アレブー橋を越えてイスラエル・パレスチナ自治区へ	朝○ 昼× 夜× 【ベツレヘム泊】
2/11 (月)	スタディトリップ in ジェリコ 08:00 専用車で JICA が文化遺産保存支援をするヒシャム遺跡とインフラ整備支援するジェリコ農産加工団地を訪問	朝○ 昼× 夜× 【ベツレヘム泊】
2/12 (火)	スタディトリップ in 聖地 08:00 専用車でエルサレム、ヘブロン、イブラハムモスク、ガラス工場等訪問	朝○ 昼× 夜× 【ベツレヘム泊】
2/13 (水)	朝食後、出発まで自由行動 アレブー橋を越えてヨルダンの首都アンマンへ	朝○ 昼× 夜× 【アンマン泊】
2/14 (木)	スタディトリップ in ヨルダン 08:00 専用車で JICA が難民女性雇用向上支援するバカア・パレスチナ難民キャンプ、日本の大学が支援していた古代ローマ時代の遺跡ウムカイス遺跡を訪問 イルビッドのヨルダン科学技術大学の学生たちと交流後、アンマンへ	朝○ 昼× 夜× 【アンマン泊】
2/15 (金)	各自負担でホテルからアンマン空港へ →アンマンから空路東京へ →	朝○ 昼× 夜× 【機内泊】
2/16 (土)	→東京着 お疲れさまでした♪	

2月9日出発  
東京発着

早割★1万円割引  
12月21日まで申込の方!!!

旅行代金(おひとり)  
**¥398,000**  
(諸税別)

料金は2018年9月1日時点でのものです。航空券の空席状況、外国為替変動など、今後の動向により料金変更する場合があります。

お申込締切日 1月11日(金)

- 最少催行人数: 6人(参加者6人以下の場合は応相談) ■日本人ナビゲーター同行 ■利用予定航空会社: エティハド、エミレーツ、カタール航空など
- 利用予定ホテル: アンマン・アラビアンタワー、ベツレヘム・ホーリーランドホテル等
- 一人部屋追加料金/45,000円 ■申込金を添えてお申込みいただきます(申込金は旅行代金をお支払いいただくときに、その一部として繰り入れます)。
- 料金に含まれるもの: 航空券、車両、現地ガイド、朝食、二人部屋に基づく宿泊代
- 料金に含まれないもの: 空港税、諸税、燃油チャージ、航空保険代、アンマン市内と空港の交通機関、全ての入場料、ヨルダン出国税 10JD(約2000円)とイスラエル出国税 178NIS(約7000円)、国境超えバス代 10JD(約2000円)、オプションツアー代、ガイドさん(1日20ドル)とドライバーさん(1日10ドル)へのチップ、全ての個人出費
- 追加料金にて、東京発着以外の航空券手配、ヨルダン滞在延長、中近東、アフリカ、欧州の旅行手配など承ります。

### お取消料

- 旅行開始日の前日から起算して30日目に当たる日以降に解除⇒ご旅行代金の20%
- 前々日以降に解除 ⇒ご旅行代金の50%
- 旅行開始後、無連絡不参加の場合 ⇒ご旅行代金の100%、その他、ご旅行条件は標準旅行業約款によります。お申込み時にお渡し致しますので、ご熟読下さい。

■NPO 法人 Save the Asian Monuments: 当トリップはアジアの文化財、遺跡と博物館の支援呼びかけを行ない、アフガニスタンの遺跡調査、イラクやパレスチナの写真展、スリランカの世界遺産大清掃、ガンジー博物館パンフレット翻訳、国際文化遺産危機フォーラムなど手掛けてきた Save the Asian Monuments がコースを立案し旅行実施を協力するものです。東京発着以外の手配も可能です。旅程に関するご希望やご相談はお気軽にどうぞ。コースに関するお問合せはこちらまで⇒080-5475-5841(中山 信一) Email: [nkym041@gmail.com](mailto:nkym041@gmail.com)

★ご理解のお願い★ 現地情勢によるヨルダン・イスラエル国境封鎖または閉鎖、各訪問個所の閉鎖が発生した場合、やむを得ず、日程を変更または訪問を中止することがあります。ご了承下さい。

旅行申込はこちらまで

株式会社 TABI'Z (タビーズ)

(ボンド保証会員)  
(日本旅行業協会正会員)  
(観光庁長官登録旅行業第1906号)  
〒108-0014 東京都港区芝5-13-18 いちご三田ビル9F

電話: 03-6435-4833

✉: [info@tabiz.jp](mailto:info@tabiz.jp)

担当: 熊澤房弘

## 現地発着手配旅行 アンマン発着（2名様より）

- ❖ サルト、ジェラシュ遺跡、ベタニ観光  
29,800 円／お一人様
  - ❖ ペトラ観光  
34,800 円／お一人様
  - ❖ ワディラム砂漠観光  
34,800 円／お一人様
- （料金は現地ガイドとドライバーのみ付きます）  
現地代理店 Creative Tours, Amman, Jordan



## ● 旅行説明会 ●

日時：12月16日（日）17:00～

場所：西アフリカ料理店カラバッシュ

住所：〒105-0013 東京都港区浜松町

2-10-1 浜松町ビル B1

電話番号：03-3433-0884

アクセス：

JR「浜松町」南口 S5 階段金杉橋方向

出口（S5 階段）より徒歩 90 秒

都営浅草線 & 大江戸線「大門」駅 B2

出口より徒歩 4 分

都営三田線「芝公園」A3 出口より徒歩

6 分

### ●スタディトリップ in 死海

中近東の初めの誘いはモザイク画の町マダバです。ここにあるマダバの聖ジョージ教会の床にはモザイクで描かれた聖地エルサレムの地図が残っています。教会内は私語厳禁ですが、入口に描かれている地図を基に聖地エルサレムやベツレヘムなど探してみたいかがでしょうか。教会付近にはモザイク画を修復、復元、制作を行うマダバモザイクスクールもあり事前予約で見学可能です。死海を望む断崖の上に立つのが死海ミュージアム。こじんまりとした雰囲気を出す館内は死海の歴史、自然史、文化遺産など紹介しています。JICAはこの博物館の建設や活動、死海そしてパレスチナとイスラエルが臨める展望台、ヨルダンの観光開発を支援してきました。そして眼下に広がる死海。イスラエルやパレスチナに沈む太陽を望める絶景の死海ビーチ。しかし死海の水量は年々減り続け、環境問題となっています。日本に聞こえてこない中近東の話題も触れられることでしょう。

### ●スタディトリップ in 聖地

イスラム教、キリスト教、ユダヤ教の聖地、エルサレム。東へ向かうゲートのダマスカス門をくぐります。旧市街には岩のドーム、嘆きの壁、アルメニア教会、神殿の丘などがありそれぞれの宗教にとって聖地を表しています。今もなお存在する文化や習慣は昔から変わりません。じっくり歩きながらそれらを日常生活に取り入れている地元の人たちを見ればリアルな平和の意味が伝わってくるでしょう。ヘブロンでは旧市街や地元のグラス工場を訪ねたり、ベツレヘムでは自由行動の時間を使って中心街を歩いてみたいかがでしょうか。

### ●スタディトリップ in ヨルダン

1967年以降、ヨルダンの首都アンマン郊外バカア地区に設立されたヨルダン最大のパレスチナ難民キャンプ。ここでは JICA が難民女性の仕事向上のための職業訓練センターを設立。伝統的に女性が仕事をすることがタブー視されていたジェンダーを克服し、せっけんや香水ビジネスで収入を獲得できるよう人材育成を支援しています。そしてゴラン高原が望めるビザンチン時代の遺跡が残るウムカイス遺跡では、国士館大学が遺跡の発掘と保護の支援を行ってきました。現在は人材養成によって培われたヨルダン人専門家が現在引き継いで作業を続けています。ウムカイス遺跡近郊イルビッドにある国立ヨルダン科学技術大学では日本の文化やアニメに興味を持つ地元の学生たちがインターネットや文化祭を通して日本に住む人たちと交流を行い日本を学んでいます。ここでは人材養成の現場と将来の知日派と巡り合えることでしょう。

### ●スタディトリップ in パレスチナ

ヨルダン川西岸のジェリコには 8 世紀にたてられたヒシャム宮殿遺跡があります。JICA は中東最大級のヒシャム宮殿モザイク画の保護支援とパレスチナ観光開発のインフラ整備支援を行っています。また JICA は 2006 年に日本政府が提唱した「平和と繁栄の回廊」構想の旗艦プロジェクトであるジェリコ農産加工団地（JAIP）において、工業団地運営管理機能や入居企業へのインセンティブサービス提供機能の向上を支援しています。JAIP では、オリーブオイルを材料に使った石鹸や、オリーブの葉から抽出したエキスで作った健康食品を工場生産している企業が稼働しており、輸出展開も行っています。ここでは観光開発や経済援助のハード面を実感できることでしょう。

## 企画者から

聖地エルサレムを含むイスラエル、パレスチナ、ヨルダン訪問は文化遺産巡りや異文化体験に関心を持つ旅行者に、とても魅力的なコースであり、年間を通じて数多くのツアーが催行しています。しかしその舞台裏である観光開発やインフラ整備の現場は意外にも私たち日本によって支えられてきた事は知られておりません。3 大宗教の聖地における共存の姿、文化遺産や観光開発を支える姿、これらは全て「ヒト」なのです。このトリップの一番のヴァリューは、直接、日本の国際援助の現場を見聞出来る事です。今、何が起きているのか、これから私たちは何をすべきなのかを、このトリップを通して感じて頂ければ幸いです。